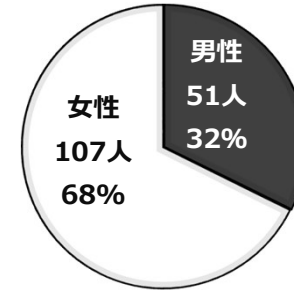


<概要>

- Eモニターとは
市民の皆さんに「Eモニター」として登録いただき、お手持ちのパソコンやスマートフォンからインターネットと電子メールを利用して、市からのアンケート調査にお答えいただく制度
- 実施期間
令和4年7月29日（金）～8月7日（日）
- 質問内容
地域福祉に関すること（全10問）

<回答者情報>

- 回答者数：158人
男性：51人、女性：107人



- 年齢構成

年齢	人数	割合
20～29	3	1.9%
30～39	24	15.2%
40～49	52	32.9%
50～59	41	25.9%
60～64	14	8.9%
65～69	7	4.4%
70～74	14	8.9%
75～79	2	1.3%
80～	1	0.6%

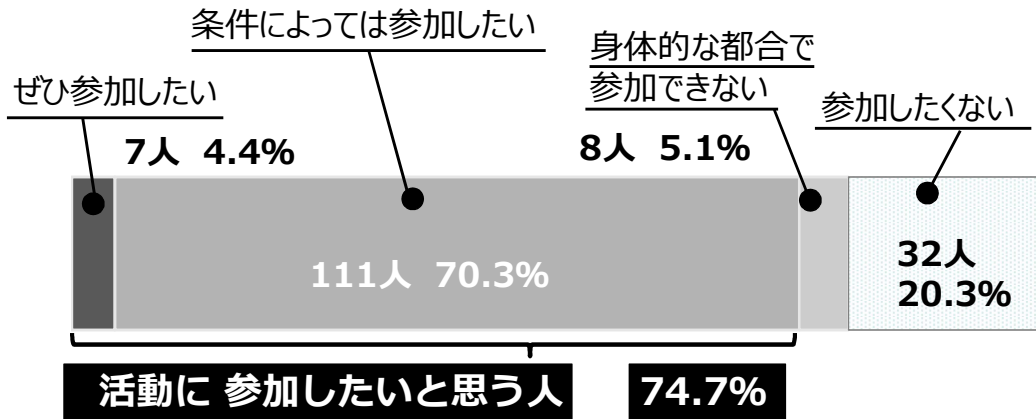
- 職業構成

職業	人数
会社員	46
会社経営・役員	3
自営業	5
農林水産業	1
公務員	4
パート・アルバイト	43
専業主婦（夫）	35
無職	19
その他	2

<成果目標に関すること> 【基本目標1】地域の支え合いの仕組みづくり

指標名	現状値	目標値
今後、ボランティア・市民活動やNPO活動に参加したい（続けたい）と思う市民の割合 (平成30年度調査)	59.3%	
生活上の悩みや不安を家族や親戚以外にも相談できる市民の割合 (平成30年度調査)	66.9%	

質問：あなたは、今後、ボランティア・市民活動やNPO活動に参加したいと思いますか？
ここでは、「ボランティア・市民活動やNPO活動」を、社会的な課題の解決等に向けた、自発的な活動とします。

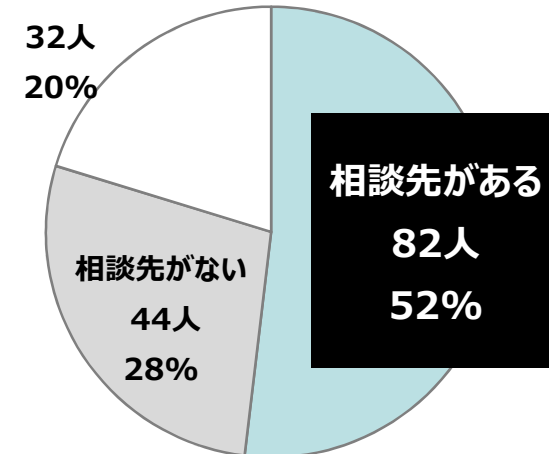


質問：日常生活の悩みや不安について、家族や親族以外に相談できる人、または相談できる場所がありますか？

<例>

友人や知人、隣近所、自治区、民生委員、社会福祉協議会、市役所、地域包括支援センター、子育て支援センター、病院・診療所、福祉サービス事業者、ボランティアやNPOなど。

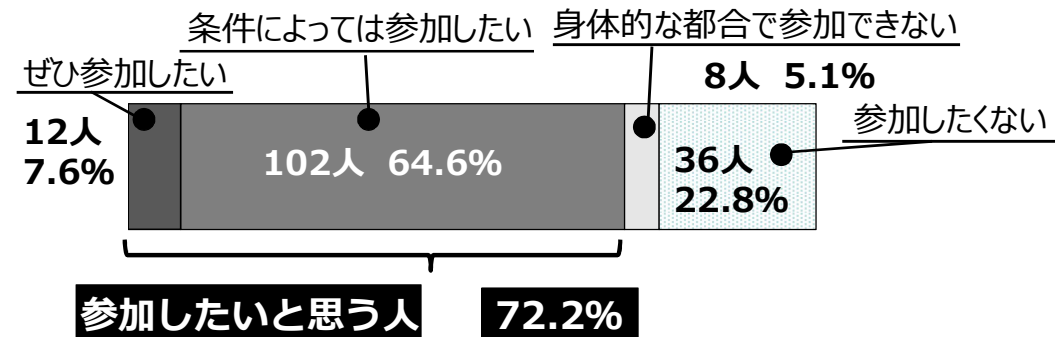
相談はしない（相談する必要がない）



【基本目標2】地域福祉の担い手づくり

指標名	現状値	目標値
今後、地域活動に参加したい(続けたい)と思う市民の割合	68.9% (平成30年度調査)	

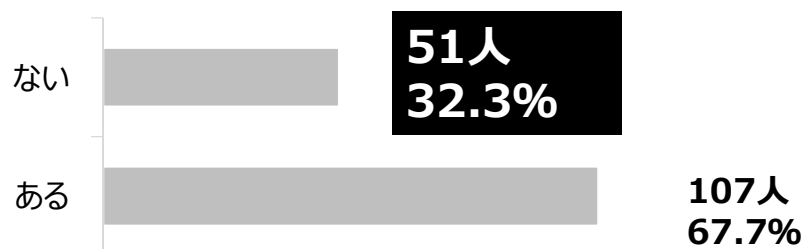
質問：各地域では、様々な地域活動があります。あなたは、今後、地域活動に参加したいと思いますか？
 ここでは、「地域活動」を、自治区の活動、高齢者クラブ、地域の行事の手伝い等の身近な地域での、主に地縁による活動とします。



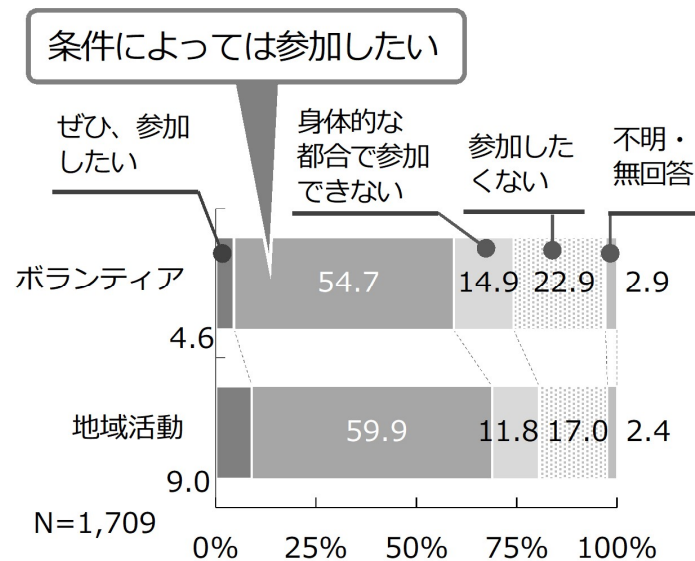
【基本目標3】誰もがいつまでも活躍できる仕組みづくり

指標名	現状値	目標値
「身近に集える場所」について「特にない」と回答した市民の割合	31.5% (平成30年度調査)	

質問：お住まいの地域に「身近に集える場所」はありますか？
 <例>
 地域の施設（区民会館等）、身近な公共施設（交流館、子育て支援センター）、友人・知人宅、身近な公園、喫茶店等の飲食店など。

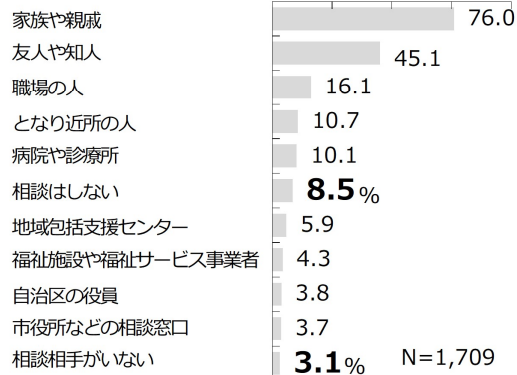


<参考：平成30年度に実施した市民アンケートの結果>



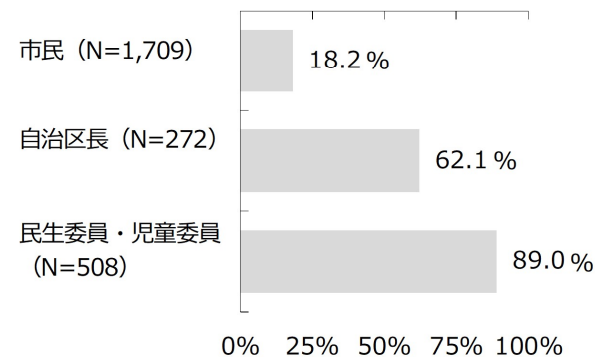
相談相手は「家族や親戚」「友人や知人」などの身近な人が多く、相談しない人・相談相手がいない人もいる

■悩みや不安の相談相手



「福祉の相談窓口」の認知度は、市民は2割、自治区長は6割、民生委員・児童委員は9割程度となっている

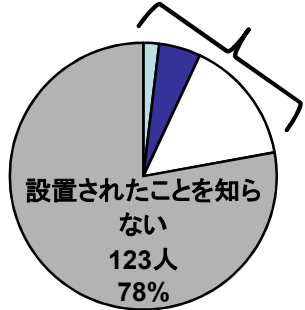
■「福祉の相談窓口」の認知度



<福祉の相談窓口>

質問：各支所（上郷、猿投、高岡、高橋、松平）に設置されている「福祉の相談窓口」を知っていますか？

窓口の認知度 22.2%



設置されたことを知っていて、
利用したことがある 3人 1.9%

設置されたことを知っていて、
概要も知っているが、
利用したことはない 8人 5.1%

設置されたことは知っているが、
概要は知らない 24人 15.2%

<DX（デジタルトランスフォーメーション）>

質問：普段のコミュニケーション手段として、どのような情報通信機器をお使いですか？（複数選択可）

固定電話・FAX



42人 26.6%

携帯・スマホ



149人 94.3%

タブレット端末



29人 18.4%

パソコン



61人 38.6%

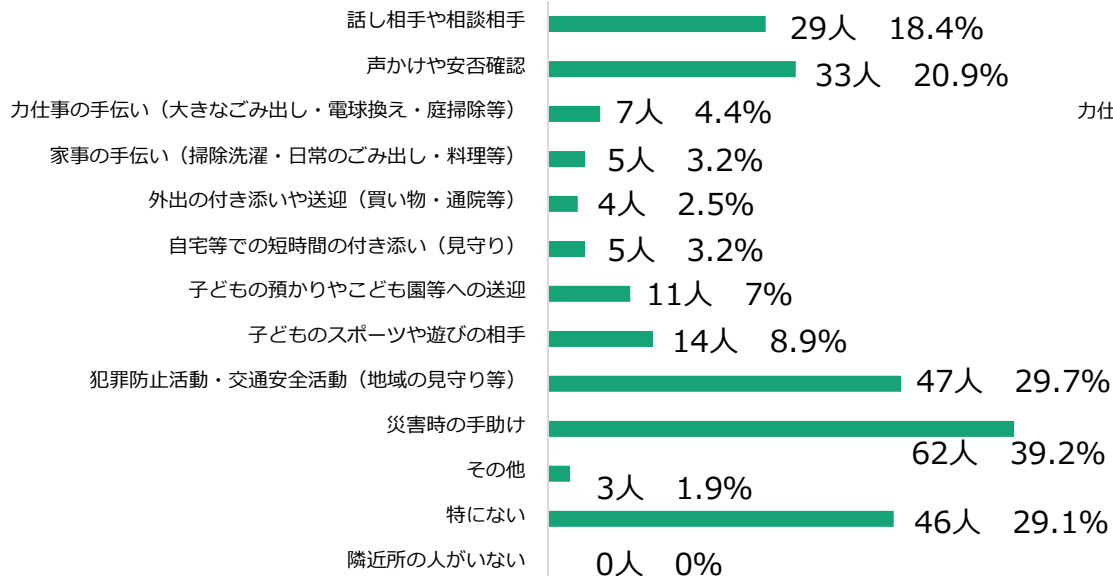
その他の
通信機器



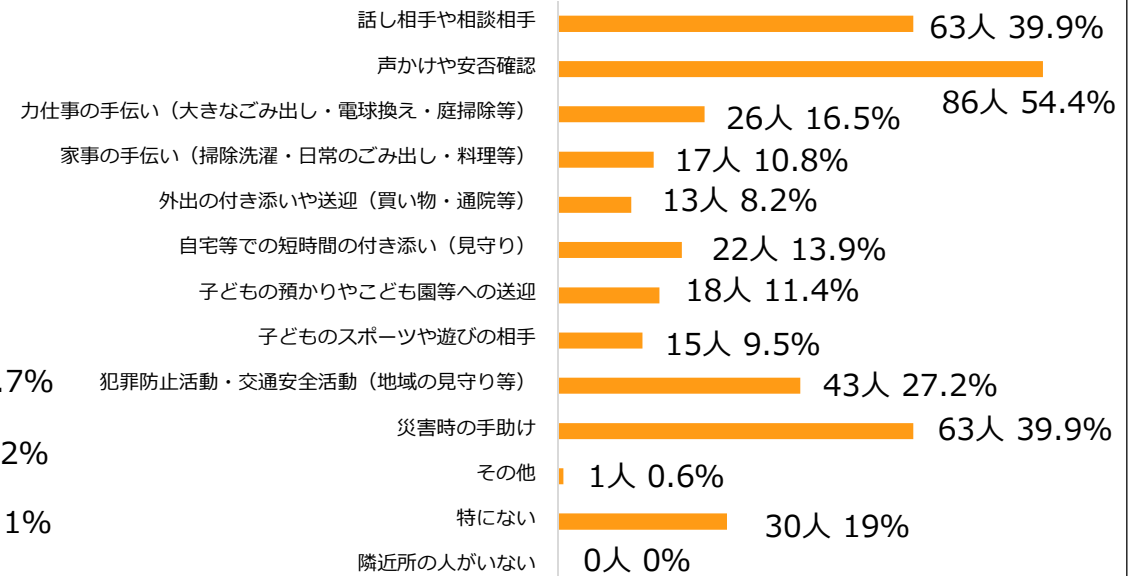
2人 1.3%

<地域での手助けや助け合いについて>

質問：あなたは、生活の中で、隣近所の人にどのような手助けや協力をしてほしいと思いますか？（複数選択可）



質問：あなたが隣近所の人に対して手助けや協力ができることはありますか？（複数選択可）



<発見するためのアイデア>

質問：支援を必要としている人を見つけ出すアイデアがあれば教えてください。

地域で行うこと

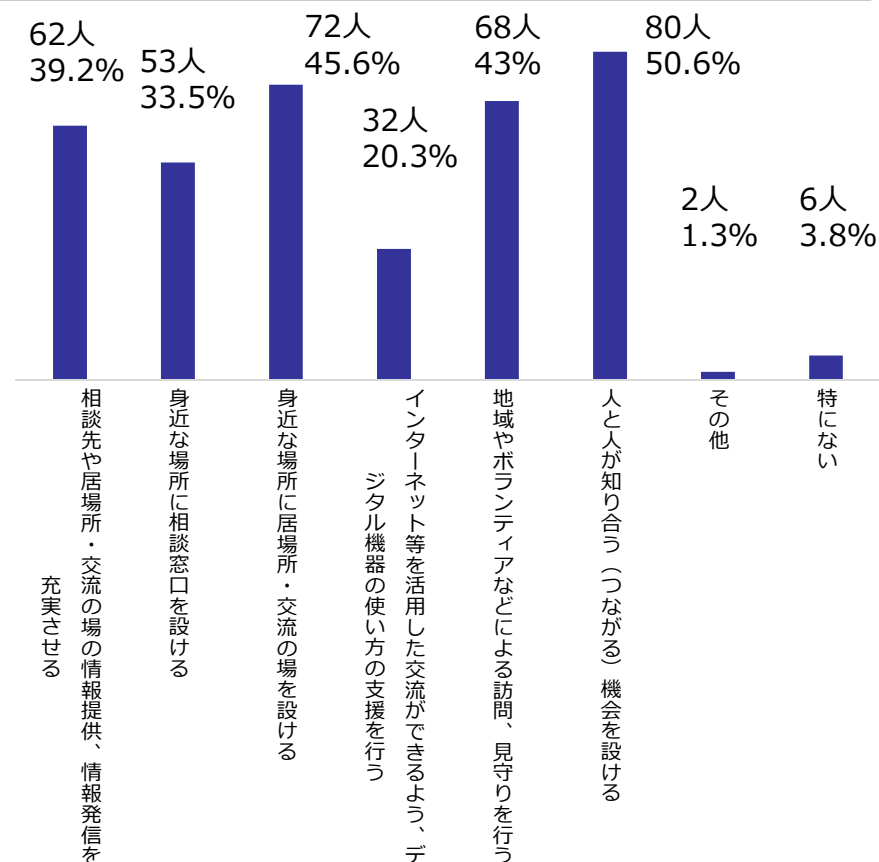
- ・ 家庭を訪問して声掛けを行い、話の中で見つけ出す
- ・ 近所付き合いに尽きると思います
- ・ 住民の当番制で声かけをしたらいいと思う
- ・ 日頃の近所の人などとのあいさつ、声かけ
- ・ 本人からはなかなか申し出は難しいので、周りの人から情報を募る

共働で行うこと、やってほしいこと

- ・ 自治区の方と市役所との連携
- ・ 自治区でアンケートなどを各家庭に配り、何に困っているかを把握する
- ・ インターネットを介した相談窓口
- ・ 支援を必要な人は自発的に声あげられない人だと思うので、情報を発信し続けて、声を上げる事への恐怖や心配や不安を和らげる
- ・ 本人より周囲の方が声を上げやすいと思うので、あそこの家の人支援が必要かな？って思ったら連絡できる場所があるよっていう地道な啓発活動
- ・ 広報に毎回掲載する。市役所や公民館などにも掲載する。市役所の封筒や郵送するときの封筒とか。
- ・ 本人からSOSを発信できないんだから、回りの目が気がついて、気楽に連絡出来る窓口があれば良い。

<孤独・孤立>

質問：孤独・孤立問題の対策として、どのような支援があると良いですか？（複数選択可）



<まとめ>

- ・ 前提として、平成30年度に実施したアンケートと対象者が異なる。（20歳以上の市民から無作為に抽出した4,000人）
- ・ 今回の回答者は40代～50代が多いため、切羽詰まった状況ではなく、福祉の相談窓口については、まだ利用しない年齢だと推測するが、引き続き周知啓発を行う必要がある。
- ・ 孤独・孤立問題や支援を必要としている人を見つけ出すには、近所付き合いや人と人がつながる機会が大事だと考える市民が多かった。